

## 令和4年度事業報告書

## 特定非営利活動法人なかの里を紡ぐ会

## 1 事業の成果

- ① 昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの感染リスクの回避により講演活動や緩和ケア等のイベント等は自粛や中止が相次ぎ、大幅に縮小した。  
11月にみんなで考える中野ネットワーク（MIKAN）のメンバーとして、「中野ダイバーシティフェスタ」に参加。認知症に関する啓発を行った。現在も同ネットワークの定例会議に参加している。
- ② ホームホスピス事業では長期（4年・3年）にわたり入居されてきたお二人をお見送りした。居室は看取り後半月程度を除き、満室で経過した。また、入居者全員が嚥下困難の状態となり、中野区フリー活動栄養士会の支援も受けて、全職員で嚥下が難しい人の食事作り、食支援について学び、最期まで口から食べる為に、ケア体制の向上を図った。さらに、喀痰吸引や胃ろうからの経管栄養など医療的ケアの必要な方が増え、介護職員の9割以上が研修を受けて認定特定行為従事者として届出を行った。その他「認定ホームホスピス」として、全国ホームホスピス協会が主催している「ホームホスピスの学校」の実習生を1名受け入れた。
- ③ 通所介護事業は今年度も新型コロナウイルスの感染拡大の影響を大きく受け、利用者は前年度と比較し微増に留まった。10月以降年度後半は利用者数が伸びなかった。
- ④ 居宅介護支援事業は介護支援専門員を1人増員して2人体制となり、要支援を含めて月平均67件、3月末現在77名の利用者のケアマネジメントを実施。地域包括支援センターとの連携も進み、事例発表等を行った。また、事例を通して障害や生活困窮者支援など多様なネットワークとつながりを持つことができた。
- ⑤ 訪問介護事業は「ホームホスピス里の家」の入居者のみの訪問に留まった。里の家の利用者は要介護5が4人、要介護3が1名。利用者が重度化し、医療的ケアが必要となり、喀痰吸引や胃ろうからの経管栄養等の医療的ケアの研修を受講した。（上記ホームホスピス参照）
- ⑥ 訪問看護ステーションは難病や終末期療養者、認知症及び精神疾患を持つ利用者等に訪問。新型コロナウイルス感染の影響及び12月末で看護師1人の退職があり、延べ利用者数は昨年度の79%と減少した。今年度も事業所連絡会の訪問看護部会に参加し、代表を務めた。

## 2 事業の実施に関する事項

## (1) 特定非営利活動に係る事業

(事業費の総費用【118,339,015】円)

定款に記載された事業名	事業内容	日時	場所	従事者人数	受益対象者範囲	受益対象者人数	事業費(円)
保健、医療又は福祉の普及啓発及びネットワーク構築事業	・みんなで考える中野ネットワーク（MIKAN）のメンバーとして映画「中野ダイバーシティフェスタ」にスタッフとして参加	令和4年11月13日	明治大学中野キャンパス	1人	一般住民および医療・福祉・介護関係者	約100人	0
	同ネットワークの定例会議に参加	毎月1回	オンライン	2人			
	帝京平成大学薬学部および看護学部学生の地域実習の受け入れ	通年	各事業所及び利用者宅	3人	薬学部及び看護学部学生	6人	

	薬学部学生 2 名の実習は「オレンジバルンフェスタミニ」として受け入れ	令和 4 年 10～11 月 発表会は 11 月 5 日	ホームホスピス及び帝京平成大学	1 人	同上	約 30 人	
	・機関紙を 1 回発行	令和 4 年 9 月	—	2 人	会員・行政・医療介護関係機関・一般住民	200 部発行	
	下記委員会に委員として参加 ・中野区地域包括ケア推進会議 在宅医療介護連携部会 ・中野区地域包括支援センター運営推進会議	年 3 回程度	中野区役所	2 人	一般住民	—	
終末期療養者及び要介護高齢者の生活支援事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・常時満室で 5 人が入居され、6 月と 7 月にそれぞれ 1 人、計 2 名の方を見送った。</li> <li>・新型コロナウイルス感染予防として職員は週 2 回抗原検査を実施。ご家族の面会制限は行わなかったが入居者の感染者はいなかった。</li> <li>・「認定ホームホスピス」として「ホームホスピスの学校」の実習生を 1 名受けた。</li> <li>・機関紙にて里の家の暮らしを紹介した。</li> <li>・中野区フリー活動栄養士会と契約し、介護食に対する勉強会の講師を依頼し、OJT として実施した。</li> <li>・東京都介護職員就業促進事業にて職員を 1 名採用した。</li> </ul>	令和 4 年 4 月より通期	中野区松が丘 2-9-4	13 人	一般住民	延べ利用者数 61 人	20,949,286
介護保険法に基づく訪問介護事業、介護予防訪問介護事業及び第 1 号訪問事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ホームホスピス里の家」の入居者の介護、生活支援を行った。3月末利用者数 5名。</li> <li>・医療的ケア（喀痰吸引・胃ろうからの経管栄養）を実施できるように職員の9割が研修を受けて認定特定行為従事者として届出を行った。</li> <li>・東京都デジタル機器導入促進事業に申請し、業務支援ソフト及びパソコンを整備した。</li> </ul>	令和 4 年 4 月より通期	中野区松が丘1-8-14	10 人	要介護・要支援認定を受けている者	延べ利用者数 介護：61人	20,928,999
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービス事業	実施せず						0

<p>介護保険法又は健康保険法に基づく訪問看護事業及び介護予防訪問看護事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師4人、理学療法士3人計8人体制（※1月より看護診3人）。難病や精神疾患、終末期療養者等、医療依存度の高い利用者にサービスを提供した。</li> <li>・感染対策として職員は週1回の抗原検査を実施した。</li> <li>・保健所の依頼があれば陽性者への訪問を行う体制を整備</li> <li>・管理者は中野区事業所連絡会訪問看護部会の部会長を務めた。</li> </ul>	<p>令和4年4月より通期</p>	<p>中野区野方2-60-8</p>	<p>7人 ※1月より看護師3人、理学療法士3人の6人)</p>	<p>要介護・要支援認定を受けている者 医師より訪問看護指示書が発行された者</p>	<p>延べ利用者 介護保険：561人 医療保険：261人 延べ訪問件数 4754人  ※3月末利用者 介護44人 保険</p>	<p>41,486,400</p>
<p>介護保険法に基づく地域密着型サービス事業、介護予防通所介護事業及び第1号通所事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、長期お休みの利用者も多く、利用者数は昨年並みに留まった。</li> <li>・感染対策として職員は週2回抗原検査を実施した。</li> <li>・地域密着型サービスとしての運営推進会議は感染防止を理由に開催できなかった。</li> </ul>	<p>令和4年4月より通期</p>	<p>中野区中央3-27-19</p>	<p>10人</p>	<p>要介護・要支援認定を受けている者</p>	<p>延べ利用者 2182人  月平均 181人</p>	<p>26,681,135</p>
<p>介護保険法に基づく居宅介護支援事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要支援及び要介護高齢者のケアプランの作成 その他ケアマネジメント</li> <li>・要介護認定調査</li> <li>・地域包括支援センター主催の事例検討会に参加し、事例発表を行った。</li> <li>・地域活動としてまちなかサロン「ほっとサロン南口」の運営に携わった。</li> <li>・MIKANの定例会議に参加し、ダイバーシティフェスタにもスタッフとして参加した。</li> </ul>	<p>令和4年4月より通期</p>	<p>中野区松が丘1-8-14</p>	<p>2人</p>	<p>要介護・要支援認定を受けている者</p>	<p>延べ利用者 要介護者 510人 要支援者 302人  ※3月末現在利用者： 要支援27人 要介護50人</p>	<p>8,293,195</p>
<p>健康及び介護、人権擁護に係る相談支援事業</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・副理事長(主任介護支援専門員)が「ほっとサロン南口」の運営に参画し、よろず相談事業を行った。</li> <li>・里の家入居待機者等に対する電話相談、訪問による相談支援を実施</li> </ul>	<p>令和4年4月より通期</p>	<p>桃園区民活動センター  待機者宅</p>	<p>2人</p>	<p>一般住民</p>	<p>主として中野区民 不特定多数</p>	<p>0</p>